

# 埼玉県羽生市における利根川観光活用ワークショップの取り組み —地域貢献活動で育む学生の創造力に着目して—

田島 洋輔\* 久米 隼\*\*

## 1. はじめに

埼玉県羽生市は、2001年の58,155人をピークに人口減少・少子高齢化が進んでおり、このまま続くと社会保障や労働力の確保に留まらず、地域社会の維持や市民の暮らしにまで深刻な影響が出ると予測されている<sup>1)</sup>。さらに、新型感染症に伴う渡航制限や外出自粛による影響は当該地域にも及んでおり官民ともに地域イベントの中止等の対応がとられてきた。このように、埼玉県羽生市では、前述した人口減少・少子高齢化の進行はもとより、地域観光産業の低迷が顕在化する等、地域再生・将来ビジョンの構築が喫緊の課題となっている<sup>2)</sup>。

こうした地域の将来ビジョンの構築に当たっては、地域のアイデンティティである歴史や文化、伝統的価値を含む「地域資源」に加えて、地域住民の創意に富んだ「知恵」を考慮したまちづくりを展開することが重要となる。これを受けて、当該地域では住民が誇る地域資源である利根川<sup>1)</sup>とその魅力を活かした観光活用を目指す組織「利根川の魅力を育む会（以下；主催団体）」を中心とした産学官民連携チームによるプロジェクトを立ち上げ、「利根川観光活用ワークショップ（以下；WS）」を開催し、利根川の具体的な観光活用策について討議を実施した。

本稿では、このプロジェクトならびにWSに参加をした「埼玉純真短期大学こども学科」と「日本大学理工学部まちづくり工学科」の学生による活動を報告する。

## 2. 主催団体概要

主催団体は、羽生市立村君小学校の総合学習の一環として2007年より16年間にわたって継続実施されてきた「利根川川下り活動（写真1）」に

端を発し、その取り組みを地域に広く発展させることをねらいに、2018年4月に埼玉県羽生市（図1）を拠点に設立された任意団体である。主催団体の活動拠点（利根川中流域）では、小中学校の教育活動において利根川に関する学習時間が設けられる等、地域住民にもなじみ深い場所である。一方、かつては舟運や渡船などの生活利用が活発であった利根川中流域<sup>3)</sup>も、現在はそうした利用はほとんど見られず、河川規模の大きさゆえに多くの地域住民にとっては存在は知るものの利水以外の面で地域資源としての利用は比較的乏しい。こうした中、利根川をラフティングボートで下る河川体験活動や、川流れ体験（写真2）、自然環境との触れ合い活動（写真3）等、全身で利根川を体感する取り組みが、「近くにあるが身近ではない利根川」と地域のこどもたちとの接点を提供するために、村君小学校の総合学習の一環として継続的に実施されてきた。筆者らの先行研究<sup>4)</sup>によると、この活動は小学生のみならず、村君地区住民にとっても『地域の誇り』に深化し、地域づくりへ進展してきた。

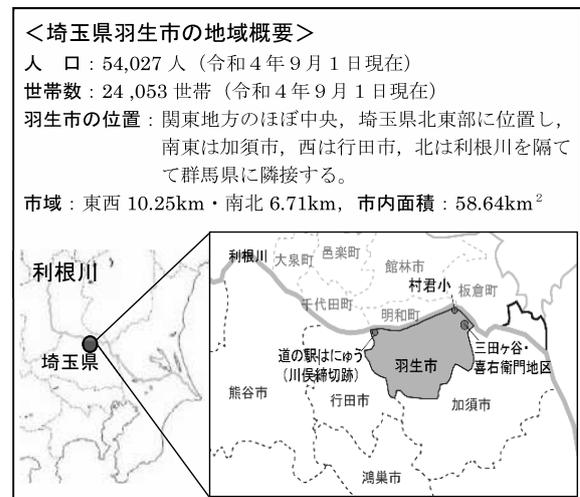


図1 埼玉県羽生市の地域概要

\* 日本大学 理工学部まちづくり工学科 助教

\*\* 埼玉純真短期大学 こども学科 専任講師

さらに、平成30年度彩の国埼玉環境大賞『奨励賞』の受賞など、地域外からの評価も高いことから、主催団体は地域住民と利根川との距離感を縮める大きな架け橋となり得る可能性を有すると考える。そして現在、地域住民の利根川に対する愛着や意識の向上と地域コミュニティの活性化を目指して、地域住民の考える地域資源・利根川の活用策を探るべく実施したのが、本稿で報告する「利根川観光活用WS」である。

### 3. 利根川観光活用WSの開催概要と工夫点

#### (1) WSの開催概要

利根川観光活用WSは、埼玉県羽生市の地域資源・利根川の観光活用方策や、それに基づく利根川観光イベントの試行を目指した活動であり、筆者らも参画している。このWSの実施に当たり、筆者らは表1に示す全4回のプログラムを企画・実行し、その提案内容をもとに「利根川観光イベント」を開催した。

#### (2) WSへの学生の参画状況

WSは、「埼玉純真短期大学こども学科」と「日本大学理工学部まちづくり工学科」の2大学が連携して企画・運営を実施した。

「埼玉純真短期大学こども学科」は、地域貢献事業の一環として当該事業に参画し、指導教員1名と学生3名（以下；純真生）が学内公募によって選出された。また、「日本大学理工学部まちづくり工学科」は、WSによる実践的なまちづくり事業への地域貢献活動として学生5名（以下；日大生）が学内公募で選出され、当該事業へ参画した。

#### (3) WS実施上の工夫点

1) 能動的な発言を促す工夫；当WSでは、参加者の活発な意見を引き出すことを目的として、学生ファシリテーター（日大生）を中心としたテーブルマネジメントを展開した。また、純真生は当

該地域で学ぶ学生の立場で参加し、企画グループをわけることで、参加者側の立場からも活発化させるよう努めていた。さらに、WS内で意見が出しきれなかった場合には、振り返りシートを記入してもらい、ワーク内で話しきれなかった事項や、今後のWSへの意気込み、改善が必要な事項

表1 利根川観光活用WSの実施概要

回	項目	概要
第1回	日時	令和4(2022)年9月2日(金)14:30~16:30
	場所(人数)	羽生市民プラザ2階大会議室 (30名 ※日大生:6名,純真生:3名を含む)
	実目的	プロジェクトの開催趣旨や年間スケジュール、最終目標像に向けた方針を共有するとともに参加者の「利根川への想い」を整理。
第2回	討議テーマ	・羽生市における利根川の位置づけと観光活用の意義を学ぶ。 ・利根川への想い(利根川の魅力,利根川でやってみたいこと,造ってみたいもの等)の抽出。
	日時	令和4(2022)年9月23日(金)14:30~16:30
	場所(人数)	羽生市民プラザ2階大会議室 (25名 ※日大生:6名,純真生:3名を含む)
第3回	実目的	第1回WS振り返りを通して最終的な目標像を共有し,参加者が責任をもって実施可能な具体的な利根川の活用策を検討。
	実内容	・第1回振り返りと河川利用のイメージ共有 ・河川技術者紹介(建設コンサル・ゼネコン) ・利根川の活用方策(利根川でやりたいイベントや整備したい空間等)を時系列的視点(短期・中期・長期)で整理。
	日時	令和4(2022)年10月2日(日)14:30~16:30
第4回	場所(人数)	羽生市民プラザ2階大会議室 (23名 ※日大生:6名,純真生:3名を含む)
	実目的	第2回WS振り返りを通して抽出した具体的な利根川の活用策を踏まえて,実際の取り組みに展開するためのプログラム案を検討。
	実内容	・第2回振り返りとプログラムづくりの基礎 ・利根川イベントの具体化(プログラムづくり)
利根川観光イベント	日時	令和4(2022)年10月16日(日)14:30~16:30
	実目的	第3回WS振り返りを通して抽出した具体的な利根川の活用策を踏まえ,実際の取り組みに展開するためのプログラム案を検討。
	実内容	・第3回振り返りとプログラムづくりの基礎 ・利根川イベントの具体化(プログラムづくり)
利根川観光イベント	日時	令和4(2022)年11月5日(土)11:00~16:00
	場所(人数)	利根川右岸砂州・羽生市上新郷地先 (36名 ※日大生:6名,純真生:2名を含む)
	実目的	利根川観光活用WSで検討された事業のうち,本年度中に実際に取り組める短期的イベントに着目し,イベントとして試行。
利根川観光イベント	実内容	・羽生市や利根川の歴史探訪まち歩き ・利根川と羽生市産にこだわった川原DeBBQ ・利根川Deアートコンテスト(川原石アート体験) ・利根川Deフォトコンテスト・ブレ



写真1 総合学習・川下り体験  
(羽生市立村君小学校より提供)



写真2 総合学習・川流れ体験  
(羽生市立村君小学校より提供)



写真3 総合学習・自然体験  
(羽生市立村君小学校より提供)

等について回答させた（写真4）。

2) 途中参加を容易にする工夫；WSでは、全4回の段階的なプログラムを組んでおり、途中からの参加を容易にするために、毎回のWS成果を直後のニューズレター（以下；NL）に整理するとともに、前回WSの取組概要の振り返りに活用することに加え、これまでの討議成果を地域へ情報提供することで、途中参加しやすい雰囲気づくりを行った（写真5）。

3) 利根川の魅力や地域課題等の発掘方法；当該地域に関わりが深くかつ新しいアイデアを有するであろう学生参加者（純真生）への参画を依頼した。また、学生参加者の意向に基づき、羽生市域の利根川の魅力や課題を効率的かつ体験的に理解してもらうべく、WS実施の実施前に利根川川下り・川流れツアーを実施した（写真6）。

#### 4. 結果および考察

##### (1) 第1回WS開催概要

第1回では、「利根川観光活用WS」の開催趣旨や年間スケジュール、最終的な目標像（利根川観光イベントの実施）に向けた実施方針を共有するとともに、参加者が有する「利根川や羽生市に対する現状の想い」を全体で共有を図ることを目的とした。WSの実施に先立ち、利根川観光活用の意義や先進的な取組事例や利根川と羽生市との歴史的關係（写真7）に関する情報提供を行った。

その後、4班に分かれて「利根川への想い」や「利根川で取り組みたいこと・整備してみたいこと」に関して、各参加者の想いを付箋紙に書き出すとともに、班ごとに成果をまとめた（図2、写真8）。さらに、これら各班の想いをまとめた模造紙を用いて全体への情報共有を図るために班代表者が発表を行った（写真9）。図2より、共通性の高い意見としては、多様な自然や景観の豊かさ、歴史文化性、イオンモールやさいたま水族館などの羽生市の空間的特徴が抽出された。さらに、利根川や羽生市で取り組んでみたいこととしては、川原でのバーベキューやキャンプ、自作ボートレース、川辺のテントサウナ、流木や石のアートイベント等の意見が抽出された。これらは、かつて当該地域で実施されていたイベントから近年の流行に乗った取り組みなど、幅広い意見が抽出された。これら意見のうち、バーベキューや自作ボートレースなど、WS以前から議題にあがっていた活動案も見られたが、近年、流行している川辺の「テントサウナ」や川原に落ちている「流木や石を活用したアートイベント」等の新たなアイデアが学生参加者（純真生や日大生）から提案されるなど、初回WSから学生参加者の参画効果が確認された。

##### (2) 第2回WS開催概要

第2回では、利根川観光活用の留意点に関する情報提供に加えて、WSに参画する地場ゼネコン・



写真4 振り返りシートの作成状況  
(2022年9月2日実施)



写真5 ニューズレターの作成状況  
(全4回分のNL)



写真6 利根川川下り体験（純真生）  
(2022年8月27日実施)



写真7 利根川と羽生市の歴史的關係性  
(2022年9月2日実施)



写真8 付箋紙への意見出し・D班  
(2022年9月2日実施)



写真9 討議結果の情報共有・C班  
(2022年9月2日実施)

小川工業（株）や河川系建設コンサルタント・（株）建設技術研究所による技術紹介を行った（写真10）。その後のワークでは、産学官民を混合した4班に分かれて「利根川でやってみたいこと」に関するアイデア出しを行い、模造紙や地図上で意見集約を図った。これに際し、既存の取り組みの延長線上にあり、すぐに実行に移せる短期的取り組みと、実行には十分な準備や手続きが必要となる中長期的取り組みに分類して時系列で整理した（図3）。具体的には、短期的取り組みとして、川原で得られる流木や石を活用したアートコンテスト（C班）や、利根川をテーマとしたフォトコンテストやInstagram等（D班）の提案がなされる等、学生参加者が積極的に議論したり、発表する様子が確認された（写真11, 12）。学生参加者の様子としては、第1回では初対面の大人たちに混ざっての意見交換に控えめな対応が散見されたものの、第2回では各自の想いを積極的に提示できるようになるとともに、住民意見を受け入れて、各自の意見と照らし合わせて回答する等、住民への対応力が向上していた。

（3）第3回 WS 開催概要

第3回は2部構成とし、第1部は希望者を対象とした利根川川下り体験、第2部は観光活用イベ

ントのプログラムづくりを実施した。

第1部では、WS参加者10名で、利根大堰（埼玉県行田市）から東武伊勢崎線高架下（埼玉県羽生市）までの約4.5km区間を川下りした（写真13）。これを受けて川下り参加者より、「利根川に存在する環境要素や水面からの雄大な景観等、新たな観光資源がインプットできた。」などの前向きな意見が聞かれた。

次に、第2部では、前回検討した主要テーマのうち短期的取り組みとして、今年度中に実行可能な4つの主要テーマ（①利根川を基軸とした「歴史探訪」、②羽生産を体験する川原De BBQ、③川原Deアートコンテスト、④フォトコンテスト+インスタによる情報発信）に絞った「利根川観光イベント」のプログラムづくりを実施した。具体的には、例えば、A班では、学生ファシリテーターと学生参加者（純真生）が主体となり、「①利根川を基軸とした歴史探訪」をテーマに、歴史に詳しい参加者からの意見を地図上に整理したり、迅速図（旧地図）をもとに当該地域の歴史スポットの抽出やその歴史的背景等に関する議論が展開された（図4、写真14）。さらに、全体発表に際しては、提示されたプログラムを考慮し、実施場所は妥当か、時間的に無理なスケジュールになっ

■グループ討議の結果概要

**A班 ポートで利根川を楽しむ**

- ◆羽生市の特徴
  - 自然
    - 利根川の川幅が広く景色が良い
    - 利根川から見える田舎がきれい!!
    - 多種多様な生物が生息している
  - 危険
    - 洪水の危険
    - 草木の倒壊を注意してほしい
    - 観光対策が必要
  - 施設・名所
    - 名所がたくさんある
    - 高い建物がない
    - 三日月の公園
    - 飲食店が多い
  - アクセス
    - 電車で羽生まで楽
    - 駅前の道路が混雑する
    - 川原に行くのが不便
- ◆利根川・羽生市でやってみたいこと
  - 手廻りイカダ大会
  - 泳いで利根川を渡る
  - カヌーで川原探検

**C班 地域と連携しみんなで利根川を楽しむ**

- ◆羽生市の特徴
  - 利根川と広大な河川敷がある
  - 多種多様な生物が生息している
  - イオンモールやさいたま水泳館がある
  - 行田市や加須市と隣接している
- ◆利根川・羽生市でやってみたいこと
  - 地域事業者との連携イベント
    - 痛屋し(さいたま水泳館)
    - ガチャガチャ(イオンモール羽生×さいたま水泳館)
    - 在来生物の保護
  - 川(水辺)でのイベント
    - 自作ボートレース
    - 水上アスレチック
    - キャンプ
    - イルミネーション川下り
  - 川原でのイベント
    - バーベキュー
    - テントサウナ
  - 広域連携によるイベント
    - ごまごま大会
    - サイクリング
    - 水泳大会、トライアスロン

**B班 食とお酒を生かした河辺利用**

- ◆羽生市の特徴
  - 自然
    - 自然豊か/自然を感じられる
    - 草地が多く、生物も多く
    - 川魚を食べられる
  - 交通
    - 羽生インターがある
    - 都心へアクセスしやすい
    - 122号線等、道路が広い
  - 歴史
    - 石塔がたくさんある
    - 屋敷の有名な
  - 産業
    - イオンモールがある
    - 買い物等に不便がない
    - 観光施設が少ない
- ◆利根川・羽生市でやってみたいこと
  - 利根川の砂州で懇話会!?
  - バーベキューイベント
  - キャンプ
  - たき火(キャンプファイヤ)
  - 川原バーベキュー
  - 川でビール、夕日とともに
  - その他
    - 炭木酒(アート)
  - 新しいイベントの開催
    - 利根川砂州バーベキュー
    - 水切り選手権

**D班 地形を活用し豊かな自然を楽しむ**

- ◆羽生市の特徴
  - 広大な水辺と河川敷がある
  - 多種多様な生物が生息している
  - フラットな地形
  - 自然が豊か
- ◆利根川・羽生市でやってみたいこと
  - 家々までの取り組み
    - 水辺に歩いて安全にアクセスできるまちづくり
    - 等間隔歩道を整備し、利根川ツアーの展開
    - 利根川遊歩道
    - 利根川内側の作成
  - 河川敷でのイベント
    - ドッグラン
    - グランピング
    - シネマ
    - ビアフェス
  - 水辺でのイベント
    - 川下り
    - 水泳大会
    - 対岸(群馬まで)遊泳
    - 生物観察(ハクレンウォッチング等)
    - サウナ
    - ジムニーコース
    - バーベキュー
    - アスレチック
    - SUP
    - 夜あみ大会

**■共通性の高いキーワード**

- ◆羽生市の特徴
  - 多種多様な生物や自然・景観の豊かさ
  - 歴史・文化性、イオンモール、さいたま水泳館
- ◆利根川・羽生市でやってみたいこと
  - バーベキューやキャンプ、自作ボートレース
  - テントサウナ、川でビール(お酒)

**■利根川観光活用ワークショップの今後の流れ**

第1回 WS 9月2日	第2回 WS 9月23日	第3回 WS 10月2日予定	第4回 WS 10月下旬予定	第5回 WS 11月上旬予定
○協賛の共有	○川下り体験	○イベント活動のプログラムづくり	○イベント詳細検討	○イベントの実施
○利根川や羽生市への思いを伝える	○利根川観光活用に向けた具体案検討	○改善(予定)	○実行方法の検討	○お礼状の発送

図2 第1回ワークショップの成果(利根川への想い)

てないか、特定の人員に負荷が集中していないかなど、観光イベントの実現化に向けてより具体的な検討を踏まえた質疑応答を実施した（写真15）。

（4）第4回WS開催概要

第4回では、前回の質疑応答での改善点を考慮した実行計画の立案を目的にワークを実施した。このワークに際しては、事前踏査の結果を踏まえて、利根川砂州へのアクセス路の設置場所が当初予定よりも500m程度上流側となる等の空間的制約や4テーマの同時開催に係る時間的制約を提示した上で、実行可能な具体的計画（工程・必要物品・役割分担など）を立案することを課題とした（写真16）。参加学生が中心となって検討された実行計画としては、例えば、A班では、約2時

間の「歴史探訪まち歩き」を主軸として話し合われ、地元地域に詳しい参加者から歴史を学ぶ様子が確認された（写真17）。これに加え、学生参加者よりまち歩き対象地区（上新郷地区）の地形的変遷が分かる明治期地形図（迅速図）を現状地図に重ね合わせた「まちあるきマップ」の作成・配布する提案がなされる等、学生参加者のアイデアや実行力が浮き彫りになった。また、各班の集約意見の情報共有（写真18）の時間では、様々な質疑応答が展開された。また、先に示したA班では、まち歩きを体験すると参加者自身が「利根川歴史探訪ガイド」になれることを目指したことから、その証明のために学生参加者による歴史ガイドを実施する提案がなされ、班内で事前調査を実施す



写真10 河川技術者による河川利用の留意点（2022年9月23日実施）



写真11 学生の積極的な討議・C班（2022年9月23日実施）



写真12 学生参加者の積極的な発表（2022年9月23日実施）

**グループ討議の結果概要**

**A班 歴史を活かしたイベントや夜の利根川をピックアップ!**  
発表者：下島原さん（日大）

短期的な取り組み  
・カヌー  
・マラソン大会  
・キャンプ体験  
・音楽体験  
・フォトコンテスト  
・市内の歩道をたどって利根川へ  
・野生の歴史散歩

中期的な取り組み  
・グライダー体験  
・マリンスポーツ  
・花火大会  
・BSQ  
・船と橋つりアップ  
・遊歩  
・河川敷の清掃活動

長期的な取り組み  
・湖川公園をつくる  
・湖川敷でイベント  
・カフェ  
・啓発施設

**B班 川辺の居心地の良さを活かした地場の食と酒の祭典を!**  
発表者：北尾さん（日大）

短期的な取り組み  
・こどもの職業体験  
・お祭り BSQ（イオンさんの力を借りる）  
・川魚釣り  
・世界ゆるキャラサミット  
・利根川  
・フォトコンテスト  
・学生産の食と酒フェス  
・大学寮において利根川の川魚を食べる

中期的な取り組み  
・花火大会  
・ただ水っつしたい  
・花の公園  
・ウォーキングコース  
・ペンダ  
・情報発信

長期的な取り組み  
・水上ホテル  
・川辺で子供たちが遊ぶプレーパーク  
・交通バス整備

**C班 イルミネーションやフォトコンテストで“アートな利根川”を演出!**  
発表者：奥野さん（羽生川高）

短期的な取り組み  
・川下り（ボート、SUP）  
・ヨボ  
・川魚をとって食べる体験  
・BSQ 音楽しむ  
・フォトコンテスト  
・フォトコンテスト  
・石造りコンテスト

中期的な取り組み  
・手作りいかだ大会  
・駅前でスポーツ  
・キャンプファイヤー  
・トリアスロン  
・かき氷の店  
・イルミネーションコンテスト  
・刀チヤグチャ

長期的な取り組み  
・船橋を造る  
・オープンカフェ  
・ビアガーデン  
・アスレチック  
・遊歩  
・花火大会

**D班 利根アートフェスティバル復活を基軸に多様なイベントを!**  
発表者：堀田さん（日大）、若山さん（日大）

短期的な取り組み  
・利根アートフェスティバル  
・川下り  
・川遊び  
・こみだり（表彰形式）  
・たき火  
・フォトコンテスト

中期的な取り組み  
・川遊びができる場所  
・BSQ  
・小学生が自作のライトで利根川をライトアップ  
・チャンピオンカーカフェ  
・案内板

長期的な取り組み  
・ラジコンドローン大会  
・アスレチック施設  
・キャンプ場  
・川魚館  
・カフェ  
・利根川巡回バス  
・啓発施設

**11月イベント化に向けた実施方針（案）**

①WS参加者が楽しむ“川まつり”  
・川下り（歴史探訪）/カヤック/SUP体験  
・川原 DE BBQ（親生産とのコラボ）  
・イルミネーション（制作）・アート作品  
・地域の魅力調査+情報発信

②対外的に広域的に実施する企画（案）  
・フォトコンテスト・情報発信（インスタ）

③長期的検討（案）  
・川の駅/河川敷公園（プレイパーク）の実現  
・イベント恒常化、アクセス性向上、カフェ整備

**利根川観光活用ワークショップの今後の流れ**

第1回WS 9月2日  
○準備の共有  
○利根川や羽生市への思いを語る

第2回WS 9月23日  
○川下りの体験（遊歩）  
○利根川周辺を巡りに行った調査結果の共有

第3回WS 10月2日予定  
○川下りの体験  
○イベント活動のプログラムづくり  
○投票（採集）

第4回WS 10月下旬予定  
○イベント詳細検討  
○試行方策の検討

第5回WS 11月上旬予定  
○イベントの実施  
○ごりごり  
○継続性の検討

図3 第2回ワークショップの成果（利根川観光イベントに関するアイデア）

る等、実現に向けた具体的な取り組みが議論された。

(5) プレ利根川観光イベントの開催

このイベント活動は、学生参加者（日大生や純真生）をはじめとする産学官民連携チームで議論した取り組みを試行的に実施したものであり、主

要4テーマに沿って第4回WSで企画された実行計画に従って実施された。

午前中は、「利根川と羽生市の歴史探訪まち歩き（A班）」として、イベント対象地となる道の駅にはゆう近郊に現存する歴史スポット（川関閑所跡や会の川締切跡など）や地形的変遷がみられる



写真13 WS参加者による川下り体験 (2022年10月2日第1部実施)



写真14 学生の積極的な討議・A班 (2022年10月2日第2部実施)



写真15 プログラム案に対する質疑応答 (2022年10月2日第2部実施)



写真16 プログラム制約条件の解説 (2022年10月16日実施)



写真17 地域住民から地域の歴史を学ぶ (2022年10月16日実施)



写真18 集約意見の情報共有 (2022年10月16日実施)

**グループ討議の結果概要**

**A班 歴史まち歩き&川下り**

実施目的	実施内容
事前を通じて利根川の魅力を伝える・楽しむ	ワークショップ 「全回WS参加者・参加者の子供たち等」
実施時期	11月「秋葉」
実施場所	①利根川120号橋内利根川架下 ②道の駅はげしより（道内アライズ）
実施方法	①ルネーションイベント →写真作り・キャンセルデザイン・行装 ②アート体験 →平らな石に絵を描いて世界に一つだけの利根川グッズを作る（そのままだプレゼント）
準備物等	①アクリル絵の具/筆/布で染めたタオルなど ②利根川の魅力を写真会で準備してもらい →平らな石を準備しておく（事前準備）

**C班 利根アートコンテスト**

実施目的	実施内容
利根川の魅力を伝える・楽しむ	ワークショップ 「全回WS参加者・参加者の子供たち等」
実施時期	11月「秋葉」
実施場所	①利根川120号橋内利根川架下 ②道の駅はげしより（道内アライズ）
実施方法	①ルネーションイベント →写真作り・キャンセルデザイン・行装 ②アート体験 →平らな石に絵を描いて世界に一つだけの利根川グッズを作る（そのままだプレゼント）
準備物等	①アクリル絵の具/筆/布で染めたタオルなど ②利根川の魅力を写真会で準備してもらい →平らな石を準備しておく（事前準備）

**B班 羽生産を体験する利根川 De BBQ**

実施目的	実施内容
事前を通じて利根川の魅力を伝える・楽しむ	ワークショップ 「全回WS参加者・参加者の子供たち等」
実施時期	11月「秋葉」
実施場所	①利根川120号橋内利根川架下 ②道の駅はげしより（道内アライズ）
実施方法	①ルネーションイベント →写真作り・キャンセルデザイン・行装 ②アート体験 →平らな石に絵を描いて世界に一つだけの利根川グッズを作る（そのままだプレゼント）
準備物等	①アクリル絵の具/筆/布で染めたタオルなど ②利根川の魅力を写真会で準備してもらい →平らな石を準備しておく（事前準備）

**D班 PhoTonegawa プロジェクト**

実施目的	実施内容
事前を通じて利根川の魅力を伝える・楽しむ	ワークショップ 「全回WS参加者・参加者の子供たち等」
実施時期	11月「秋葉」
実施場所	①利根川120号橋内利根川架下 ②道の駅はげしより（道内アライズ）
実施方法	①ルネーションイベント →写真作り・キャンセルデザイン・行装 ②アート体験 →平らな石に絵を描いて世界に一つだけの利根川グッズを作る（そのままだプレゼント）
準備物等	①アクリル絵の具/筆/布で染めたタオルなど ②利根川の魅力を写真会で準備してもらい →平らな石を準備しておく（事前準備）

**11月イベント質問・アドバイスコーナーで出た意見**

**A班**・川下りの人員は足りるのか（操船者、物資運搬など）？・まち歩きの帰りの見どころは？  
・まち歩きをする際の安全性は大丈夫か（対応人数など）？・他イベントとの時間調整が必要。

**B班**・こぶし花ビールは生産終了しているため、南陽酒造や東亜酒造に協力要請を！  
・他イベントとの時間調整・小川工業さんに頼り切りになっているが継続的に課題あり

**C班**・準備や片付けはいつ行うのか（前日に準備するのか、夜遅くに片づけをするのか等）、  
・他のイベントとの時間調整・グループ等の備品は利根川の魅力を育む会から提供できる

**D班**・埼玉純真大学写真部に協力していただける・当日表彰は厳しい（表彰式は別日日程）  
・子供部門等があれば純真から賞を出せるかもしれない・WSで表彰できると面白そう

図4 第3回ワークショップの成果（利根川観光イベントのプログラム案）

利根川旧川を巡るまち歩きツアーを実施した（写真19）。ここでは、学生ガイド（日大生）による解説がなされ、今後の発展も期待される活動となった（写真20）。午後には、「羽生市と利根川にこだわった川原 De BBQ（B班）」として、広大な利根川の川原を活用してBBQ活動を展開した（写真21,22）。食材調達に関しては、地元のスーパーケンゾーやJAほくさい等から利根川や羽生市産の食材を仕入れる等、地場産業との連携可能性も伺えた。

また、水辺での活動であったため、気温が低い中でも子どもたちは水際で水切りしたり、稚魚を追いかけたり、楽しく遊んでいる様子も確認された（写真23）。これに加えて、「利根アートコンテスト（C班）」として、川原で拾った石に絵の具で魚や動物などを描き、利根川の思い出を自宅に持ち帰ることのできるアートイベントが実践された（写真24）。ストーンアートの成果物の質やその量からもわかるとおり、大人も子どもも非常に楽しみながら体験していた様子が伺えた（写真25）。また、これらと並行して、「利根川フォトコンテスト（D班）」として、事前に募った利根川に関する写真を掲示し、イベント参加者からの投票をもとに優秀作品を選出（写真26）するとともに、最後に参加者全員で記念撮影を実施した（写真27）。

## 5. まとめ

以上のように、産学官民が連携した利根川観光活用WSでは、学生ファシリテーターや学生参加者を中心として利根川の観光活用に向けた様々なアイデアを集約するとともに、短期的取り組みに着目した「利根川観光イベント」を試行した各地で取り組まれている「まちづくりプロジェクト」は、地域住民の想いをカタチにすることが非常に重要となるが、住民のみでは実行まで至らない事例が散見される。

こうした中、当プロジェクトでは、学生参加者（純真生や日大生）による豊富なアイデアやそれを具体化するための実行力に加え、行政や地元企業、地域住民などの「地域への思い」に後押しされ、観光イベントの試行にまで至ることができた。近年、羽生市では、「羽生市観光基本計画・後期計画（2015）」において新たな観光資源開発促進のひとつに利根川を活用した観光振興に係る空間整備を掲げており、羽生市域の産学官民のパートナーが連携・協働し、地域の声を活かした特色ある利根川観光プロジェクトが展開できる可能性が示唆される。さらに、こうした利根川観光イベント等の実施によって育まれた「シビックプライド」は、近年、全国的に弱体化してきた地域コミュニティの活性化を促すことも期待できよう。

今後も、主催団体の独りよがりのイベントを展



写真19 歴史探訪まち歩きの実施状況  
(2022年11月5日実施)



写真20 学生ガイドの実施  
(2022年11月5日実施)



写真21 川原 De BBQ (全体の様子)  
(2022年11月5日実施)



写真22 川原 De BBQ 活動  
(2022年11月5日実施)



写真23 水際で遊ぶ子どもたちの様子  
(2022年11月5日実施)



写真24 川原 De ストーンアートの実践  
(2022年11月5日実施)

開するのではなく、当プロジェクトに起因するような羽生市における産学官民の各視点から抽出された“地域に求められる利根川観光イベント”を展開することが望まれ、こうした取り組みを継続させるために、新しく豊富なアイデアやそれを具体化するための創造力や実行力がある学生の参画に加え、産学官民連携チームを主軸とした持続可能な体制づくりを目指していきたいと考える。

### 謝辞

当該事業を実行するにあたり多大なご協力・ご支援をいただいた利根川の魅力を育む会石川貴夫会長、羽生市観光プロモーション課、羽生市観光協会、小川工業株式会社、株式会社建設技術研究所のみなさまに感謝の意を表します。また、事業に参加いただいた日本大学理工学部まちづくり工学科および埼玉純真短期大学こども学科の学生参加者や一般参加者のみなさんにあわせて感謝いたします。

なお、本研究成果の一部は、日本大学理工学部研究奨励寄付金（利根川の魅力を育む会 代表石川貴夫）によるものです。

### 補注

- (1) 羽生市市民意識調査報告書より、羽生市民が好きな場所第1位に選定されており、今後の観光活動や環境まちづくり活動での活用を目指した様々な取り組みが展開されている（文献5）。

### 参考文献

- 1) 羽生市人口減少問題対策プロジェクトチーム. 人口減少問題対策に関する提言書. 羽生市, 2015.
- 2) 川村敦, 田島洋輔, 亀山孝之. 利根川の魅力

を育む会の活動報告—埼玉県羽生市における利根川体験活動（川下り）の取り組み—. 平成30年度自然環境復元学会第19回全国大会発表講演要旨集. 自然環境復元学会, 2019, p.1-4.

- 3) 田島洋輔, 亀井翔馬. 埼玉県羽生市における利根川の歴史の変遷と活用方策に関する研究—利根川沿川エリアの形成過程と地域住民との関係性に着目して—. 令和3年度自然環境復元学会第22回全国大会発表講演要旨集. 自然環境復元学会, 2022, p.33-36.
- 4) 田島洋輔. 河川学習の継続性と地域への波及効果に関する研究—埼玉県羽生市立村君小学校における河川学習の取り組みを対象として—. 平成29年度自然環境復元学会第18回全国大会発表講演要旨集. 自然環境復元学会, 2018, p.15-18.
- 5) 羽生市. 羽生市市民意識調査報告書. 羽生市, 2021, p.50-55.



写真 25 ストーンアートの成果物  
(2022年11月5日実施)



写真 26 利根川フォトコンテスト  
(2022年11月5日実施)



写真 27 利根川観光イベントの記念写真  
(2022年11月5日実施)